

令和7年産 もっと安心農産物「もっと安心米(コシヒカリ)」栽培暦 ～みんなで守ろう生産基準！～

JA成田市・もっと安心米生産班

月 旬	9	10	11	12	1	2	3	4			5			6			7			8			9				
								上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
生 育 ス テ ー ジ	播種期 田植え 分けつ期 最高分けつ期 幼穂形成期 出穂期 登熟期 成熟期																										
管 理 作 業	● 稲わらの 鋤き込み	● 堆肥の 施用	● 深 耕		● 耕うん	● 塩水選・ 種子消毒	● 播 種	● 畦畔作 り		● 基肥施 用	● 代かき	● 箱施薬 剤散布	● 田 植 え (基肥施 用)	● 除草剤 散布		● 中 耕・ 草 取 り	● 畦畔管 理			● 穂肥施 用	● 畦畔管 理	● 斑 点 米カメ ムシ類	いもち 病防除	● ヒエ抜 き	● 畦畔管 理	● 収 穫・ 乾 燥・ 調 製	● 稲わらの 鋤き込み
水 管 理	【深 水】 【浅 水】 【中 干 し】 【間断かんがい】 【湛水管理】 【間断かんがい】 【落 水】																										
栽 培 の ポ イ ン ト	1. 土づくり ・有機物の補給として、稲わらの鋤き込みを行う。 ・堆肥等の施用を積極的に行い、地力維持に努める。 2. 作土層の拡大 ・深さ15cmを目標とした耕耘を行い、根域を拡大する。 3. 基 肥 ・マイルドユーキ030号を40kg施用する。 （砂質土は2～3割増肥、粘質土は1～2割減肥する） ・施用時期は、肥料の分解を考慮し田植前10日を目安に施用する。 4. 穂 肥 ・NKマイルド028を20kg出穂前20日（幼穂長1cm）を目安に施用する。 ・施用遅れは、粗タンパク質含有率を上げ、食味に影響をおよぼすので注意する。 5. 育 苗 ・種子消毒は、温湯消毒又は微生物農薬エコホープDJの200倍24時間浸漬で行う。（陰干しは、しない！） ・播種量は、催芽粃で120～150g／箱の薄播きとする。 ・ハウス内の温度管理とかん水量に注意し、健苗育成に努める。特に30℃以上の高温に注意する。 6. 田植え ・育苗日数は20～25日とし、2～2.5葉期で移植する。 ・1株当たり3～5本、栽植密度は㎡当たり18.5株とし密植に注意する。 7. 雑草防除 ・秋冬期の耕うんを行い、雑草の発生量の抑制に努める。 ・生育中の畦畔管理は、草刈り機又は、バスタ液剤やラウンドアップマックスロードを散布する。 （バスタ2回迄、ラウンドアップ3回迄） ・除草剤については、一発処理剤のディオーレ(剤型指定なし)を使用時期を守って散布する。 ・雑草の発生が多い場合は、手取り又は中耕を行う。 ・藻類の発生が多い場合は、モゲトン粒剤を散布する。 8. 病虫害防除 ・畦畔及び農道などの雑草は、病虫害の発生に影響するので、草刈りを行い水田周辺の環境保全に努める。 ・初期害虫防除については、抵抗性イネドロオイムシを考慮し、パダン粒剤4を箱当たり50g散布する。 ・本田後期の病虫害である斑点米カメムシ類・いもち病等については、発生量に注意し適期に散布する。 9. 水管理 ・田植え初期は深水、活着後は浅水で管理し分けつを促進する。 ・有効茎数確保後（1株当たり18本前後）、中干しに入り無効茎数と下位節間の伸長を抑制する。 ・出穂前後は湛水管理、落水は出穂後25日以降とする。 10. 収穫・乾燥・調製 ・収穫は、帯緑色もみ歩合15%を目安に適期に行う。 ・乾燥は、水分14.5～15%とし、過乾燥に注意する。 ・調製は、グレーダーの網目は1.8mmで選別する。																										

※ 使用量は、10a当たり。
※ ●有機アグレット673号(6-7-3) 有機態チッソ6%、無機態チッソ0% ●有機追肥530特号 有機態チッソ3.4%、無機態チッソ11.6%
●マイルドユーキ030号(10-13-10) 有機態チッソ5.3%、無機態チッソ4.7% ●NKマイルド028(10-2-8) 有機態チッソ5.3%、アンモニア態チッソ4.7%